

卷末資料1

CDRモデル事業自治体の経年的自己評価結果
自治体A
自治体B

CDR

実施状況 アンケート

2023年度 【自治体A】

いつもCDR活動にご協力いただき、ありがとうございます。

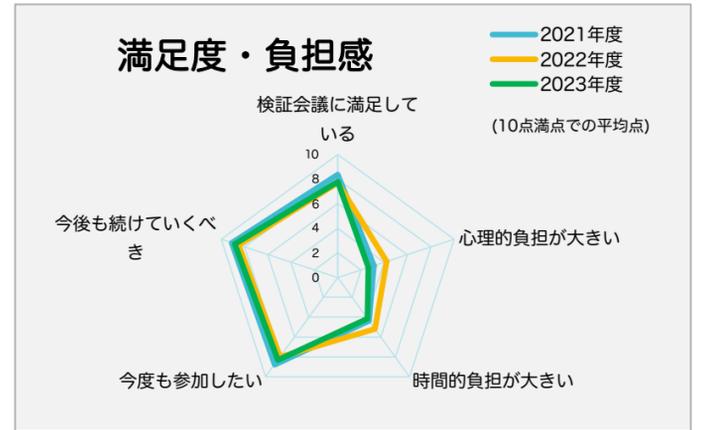
今回の参加者【19名】よりご回答をいただきました

※2021,2022年度のアンケートの回答と比較しています

厚労科研沼口班（わが国の至適なチャイルド・デス・レビュー制度を確立するための研究）にて
2024年4月作成

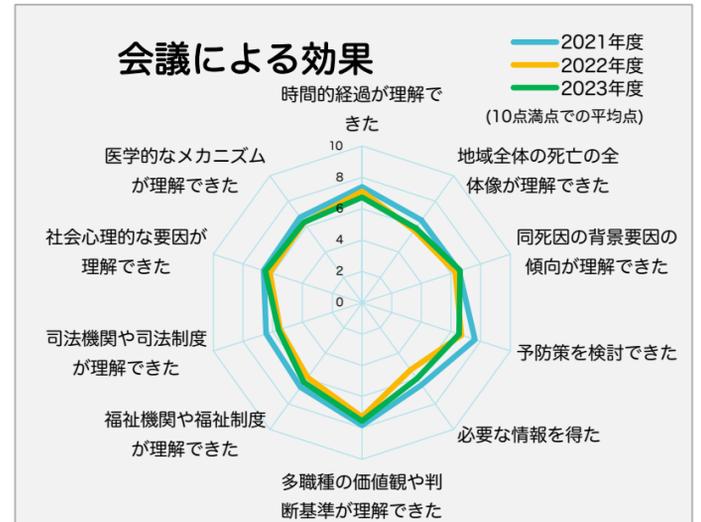
1. CDR会議の満足度や負担感について

- アンケートに回答してくださった皆様の満足度は、前年同様に高かったです（平均 7.8点）
- 心理的負担が大きい点数が下がりました（平均2.6点）



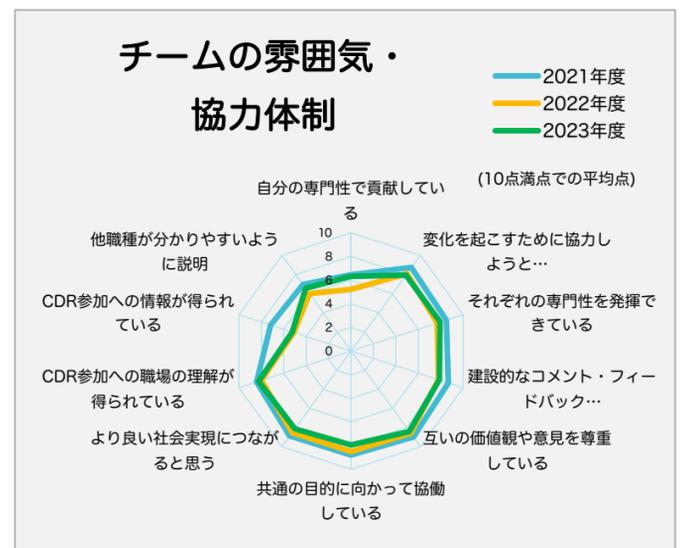
2. CDR会議の効果について

- 今回最も理解度が高かったのは、前年同様に「多職種の価値観や判断基準」でした（平均 7.6点）
- 時間的経過、同死因の背景要因の傾向が理解できたと答えている方も多かったです
- 少し点数が下がっている項目がありますが、統計学的な有意差はありませんでした



3. CDR会議の雰囲気について

- 最も平均点が高かったのは、「互いの価値観や意見を尊重している」でした(平均8.4点)
- CDR参加への職場の理解が得られている、より良い社会実現につながるという点数も高かったです
- CDR参加への情報が得られているの点数が低い人が少数名いました



【良いところ・大変なところ・今後への声】

- 様々な職種の方がきちんと発言されるので、違う視点に気づかされます。保護者への指導に有用なことや、各機関の動き等が聴けたりするので、即活用しています。
- 様々な立場で対策施策があって、その紹介が興味深かった。立場の違う人と話すと異なった視点を学べたり、専門職の仕事を知ることができたり、死因分析も見るところが違うので勉強になる。
- 過去の事例におけるミスを糾弾、批判するのではなく、徹底して今後同様の事案が起きたときにこれを防ぐという観点から議論をしているところが良かった。
- 医療の内容に偏った事例では専門的な医療用語が多く、他職種の方はまったく理解できなかったと思う。説明をする、平易な一般用語を使うなど配慮をするべきと思う。質問しづらい雰囲気なので。
- 産婦人科医や外科医など症例に合わせてゲストを呼ぶのはどうか。今回のように具体的な対策、ライフジャケットやともはぐ、グリーフケアなど実装紹介はイメージしやすく、大変よかった。自殺も多いので、その予防策を医療福祉教育など多方面から考える機会もあるといいと思う。
- 死亡診断書を利用するのではなく、死亡個票からまず拾える仕組みがあるといいと思う。法律の整備をお願いしたい。

今後ご協力のほど、よろしくお願いいたします！！

CDR

実施状況 アンケート

2023年度 【自治体B】

いつもCDR活動にご協力いただき、ありがとうございます。

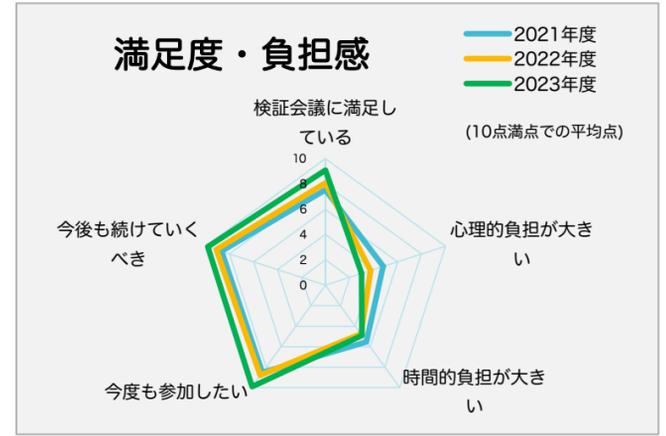
今回の参加者【11名】よりご回答をいただきました

※2021,2022年度のアンケートの回答と比較しています

厚労科研沼口班（わが国の至適なチャイルド・デス・レビュー制度を確立するための研究）にて
2024年4月作成

1. CDR会議による事例への理解度について

- 今後も参加したいが最高得点でした（平均9.9点）
- アンケートに回答して下さった皆様の満足度は、去年より少高かったです（平均 9.1点）
- 時間的・心理的負担感の点数が昨年度よりも低くなりました



2. CDR会議の効果について

- 今回最も点数が高かったのは、「多職種の価値観や判断基準が理解できた」でした(平均8.5点)
- 司法機関や司法制度が理解できた、福祉機関や福祉制度が理解できたの点数が高くなりました
- 全ての点数が7点以上と、全体的に高くなりました



3. CDR会議の雰囲気について

- 最も平均点が高かったのは、「より良い社会実現につながると思う」でした(平均9.8点)
- 共通の目的に向かって協働している・互いの価値観や意見を尊重しているという点数も高かったです
- 去年よりも、全ての点数が高くなりました



【良いところ・大変なところ・今後への声】

- 子どもの死に関わった人を責めるのではなく、予防できる死を予防するために、互いに建設的な意見を言いやすい雰囲気がある。
- 様々な事案に対して、それぞれの専門分野からどのような予防策が取れるかについて。ここで議論された予防策をどのように現場に落とし込んでいくかが課題だと思います。
- 専門的な医学用語についていけない部分がある。
- 参加のために時間を作ること（が大変）
- これまでたくさん挙げた予防策を、もう少し積極的に、施策に繋げていけると良い
- 現状では致し方ないが、司法解剖事例、あるいは、解剖していなくても警察が関与した事例についての情報開示が不足している。この点については、法令を改正する必要があると感じている。
- 自殺予防や救急医療の改善点など、毎年共通して挙がってくる問題点・予防策がある。その地域の死亡の特徴を、年度を越えても検討できると良いと思う。（専門家パネルのイメージでしょうか）
- 新法の制定（が必要）

今後ご協力のほど、よろしくお願いいたします！！